

第27回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第27回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	平成27年6月24日（水） 午後3時～
開催場所	河内長野市役所 701会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	2人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委嘱状交付</li> <li>・ 委員等の紹介</li> <li>・ 河内長野市地域公共交通会議について</li> <li>・ 河内長野市地域公共交通会議会長挨拶</li> </ul> <p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）河内長野市地域公共交通会議副会長及び監事の指名について</li> <li>（2）「平成26年度各コミュニティバス等（モックルコミュニティバス、日野・滝畑コミュニティバス、楠ヶ丘地域乗合タクシー）」の利用状況について</li> <li>（3）平成28年度生活交通確保維持改善計画（フィーダー）認定申請及び平成27年度地域公共交通確保維持改善事業補助金（地域公共交通調査事業（計画推進事業））について</li> <li>（4）その他</li> </ul>
会議内容	別紙会議内容のとおり

## 第27回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
	<p>第27回河内長野市地域公共交通会議開会の案内</p> <p>（向井副市長より委嘱状の交付）</p> <p>（事務局より委員の紹介及び資料1について説明）</p>
向井会長	<p>地域公共交通会議では、生活の根幹として非常に重要な公共交通を充実させるため、委員のみなさまの各分野からご意見をいただき、この会議を活発なものにしていきたい。</p>
	<p><b>【議題1】河内長野市地域公共交通会議副会長及び監事の指名について</b></p>
向井会長	<p>副会長に日野委員、監事に井戸委員、廣門委員を指名させていただきたい。</p>
日野副会長	<p>将来のまちづくりを踏まえた持続可能な移動手段の確保に向け、いろいろな情報提供をしていきたい。</p>
井戸委員	<p>この会議を有意義にし、まちの商工業の発展につながればと思う。</p>
廣門委員	<p>住民の立場から意見を述べさせていただければと思う。</p>
	<p><b>【議題2】「平成26年度各コミュニティバス等（モックルコミュニティバス、日野・滝畑コミュニティバス、楠ヶ丘地域乗合タクシー）」の利用状況について</b></p> <p>（事務局より資料2について説明）</p>
伊勢委員	<p>路線バス千代田線の上限運賃200円について、モックルバスとの運賃統一の効果として、目的地が重複している利用者や病院への利用者の増加率など、より細かく分析できるようなデータはないのか。</p>
事務局	<p>千代田線については年1回のOD調査時の数値のみ。今後、南海バスと調整しながら分析していきたい。</p>
野谷委員	<p>路線バス千代田線について、上限200円で運賃差も無くなり、大阪南医療センターの玄関口まで乗り入れたことで、玄関口からの便は1時間に2本になった。それに伴いモックルバスが減少したこともあるが、利便性は確実に上がっており、双方を含めた全体の効果として見ていただければと思う。</p>

<p>日野副会長</p>	<p>いつかは上限200円運賃の施策をやめる時期も検討しなければならないが、そのためには利用者数等の数値が必要。新たな取り組みに対しては、その後の評価も重要となる。今後どうしていくかということのを会議で検討していくためにも南海バスに数値等を提供していただきたい。</p> <p>取り組みを始めてからモックルバスの利用者数は2,000人程減ったが、路線バス千代田線が15%以上増えており、一定以上の効果があったといえる。今後は、先の見通しを立てて考えていただければと思う。</p>
<p>南海バス (坂口氏)</p>	<p>運賃200円以上の区間の利用者数と新設した停留所の利用者数を見ると、実施前の平成24年と比較して約60%増加している。資料の15%については、運賃200円未満の区間も全て含めた全体の数値で算出したものである。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>バス事業者としては収支の問題もある。事業として継続させていくため、モックルバスも路線バス千代田線も運賃を下げた分をカバーできるくらい利用者数が増えるように取り組まなければならない。市と事業者で検討していることを交通会議で出してほしい。</p>
<p>向井会長</p>	<p>日野・滝畑コミュニティバスについて、奥河内くろまろの郷の乗降人数はどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>正確な数値ではないが、1便平均で2人程度と聞いている。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>デマンド交通を取り入れているところが増えているが、どこもうまくいっていない。くすまの続行便についてはデマンド交通のような性格を持っているが、今後、様々な需要に対応する方法の一つとして、デマンド交通と組み合わせて運行することも検討いただければと思う。</p>
<p>岩井委員</p>	<p>公共交通に関しては、若い学生が減り、高齢者が増えている危機的状況で、経済効率や収支も考慮しながら運行しなくてはいけないので、非常に難しい問題である。個々の地域ではなく市全体で、観光や産業などさまざまな分野で事業として収支が成り立つように考えていく必要がある。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>国はコンパクトシティを推進しているが、都市計画や住宅政策などと一緒に考えなくては、公共交通単体で考えていても解決はできない。</p> <p>【議題3】平成28年度生活交通確保維持改善計画（フィーダー）認定申請及び平成27年度地域公共交通確保維持改善事業補助金（地域公共交通調査事業（計画推進事業））について</p> <p>（事務局より資料3について説明）</p>
<p>若林委員</p>	<p>国のまちづくりの原則的な考え方としてコンパクトシティがあり、人や都市機能の集約に取り組んでいるが、住居など急に換えられるような簡単な話でないのは</p>

<p>日野副会長</p>	<p>重々理解している。一時的な交通施策ではなく、まちづくりの一環として大きな視点から交通施策を考えていかななくてはならない。運輸支局としても、良いまちづくりのため、様々な補助メニューを活用いただけるよういろいろ協力させていただきたい。</p> <p>モビリティマネジメントについては、まちづくりや環境、健康など広い範囲で捉え、それらをより良くするために移動を考えるというのが本来の意味である。実際に事業をする際には、そういった広い捉え方で取り組んでいただきたい。</p> <p>(原案で申請すること、申請後の修正等については事務局に一任いただくことで承認を得る)</p>
<p>事務局</p>	<p><b>【議題4】 その他、全般について</b></p> <p>今年度はバスマップの作成や桐ヶ丘等の不便地域との協議等を継続的に取り組んでいく予定。次回の交通会議についてはそれらの報告も兼ねて、10月頃を予定している。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>様々な取り組みの効果、評価について、南海バスさんにできるだけデータを提供いただき、みんなで議論していきたい。また、平成25年度に導入した取り組みについて、市と大学と共同で継続的に調査をさせてもらっており、今年も学生が調査させていただく予定なので、よろしく願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

第27回河内長野市地域公共交通会議委員名簿

氏名	所属・役職	代理出席
向井 一雄	河内長野市 副市長	
日野 泰雄	大阪市立大学大学院工学研究科 教授	
伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 准教授	
若林 隆司	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 首席運輸企画専門官	
湯川 義彦	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 輸送部門 首席運輸企画専門官	欠席
浅井 敏彦	大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 公共交通計画グループ 課長補佐	欠席
田中 伸之	大阪府富田林土木事務所 地域防災担当参事兼地域支援・企画課長	
八代 光男	大阪府河内長野警察署 交通課長	
松内 祐二	南海バス株式会社 企画部 企画課長	
野谷 将一	南海バス株式会社 営業部 営業課長	
坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
池谷 育晃	大阪第一交通株式会社 河内長野営業所長	
棕本 専次	近鉄タクシー株式会社 南大阪総合営業所長	
曾和 孝司	河内長野市老人クラブ連合会会長	欠席
阪上 明	河内長野市観光協会相談役	
井戸 清明	河内長野市商工会会長	
岩井 仁	市民公募	
廣門 久美子	市民公募	
岡田 充	河内長野市健康長寿部長	
田村 公秋	河内長野市産業経済部長	
榊井 繁春	河内長野市都市づくり部長	
塩谷 聡	河内長野市総務部長	
辻野 修司	河内長野市総合政策部長	